

歯を失った場合の治療法：3つの治療法

1. よく咬めることの意義

よく咬んで、より良く食べることは、より良く生きることの基本です。健康の増進には、よく咬んで、おいしく食事を楽しむことが大切でしょう。つまり、お口は消化器の入り口で、全身に栄養を送り出す出発点なのですが、それとともに人間の健康と生活に不可欠な臓器です。

虫歯、歯周病などの病気のために歯が失われると、咬む力がおとろえたり、咬む意欲が損なわれ、食事を楽しむことが出来なくなります。また、全身へも悪影響が波及し、糖尿病をはじめ、誤嚥性肺炎、脳梗塞、高血圧、動脈硬化、歯性感染症、認知症など、大病を起こす危険性が高まります。

よく咬めるということは、健康の維持にとって極めて大事な条件なわけです。

2. 歯の喪失による悪影響

喪失した歯を回復せずに放置していると、残存する歯の移動が始まり、咬み合わせが変化してしまいます。その結果、虫歯や歯周病、咬み合わせの異常などを引き起こす場合があります。さらに、顔貌にも変化（歪み）を生じることがあります。唇が薄く平に見えたり、下あごが前方で上方に突き出たり、先端が尖って見えるようになります。つまり、口元の本来の形が崩れて、上下の唇が合わさる線が直線的になり、下あごの両側で皮膚のたるみが目立つようになります。さらに、口角に深いシワやカブレが現れることもあります。

3. 失った歯の回復：3つの治療法

1) 固定式ブリッジ

ブリッジは1本または複数の失った歯の隙間を埋めるために用いられる固定式の（取り外せない）装置です。一般的なブリッジは、欠損した両隣りの歯を形成して（削って）土台にします。この土台にクラウンをかぶせ、失った歯の代わりになる人工歯を支えます。ブリッジはセメントで接着して固定されます。

2) 取り外し式義歯

取り外し式義歯には、部分入れ歯と総入れ歯があり、洗浄の際や睡眠中は口から取り出すことができます。

部分入れ歯は1本または複数の歯を失った場合にその回復のために用いる装置です。一般的には、歯肉色のプラスチック製土台の上に人工歯が取り付けられており、土台部分は金属バーで接続されています。

総入れ歯は、全ての歯を失った場合にその回復に用いる装置です。

3) インプラント

インプラントは欠損した歯の人工歯根として用いられます。外科手術で歯肉の下の顎骨中にインプラント体を埋め込みます。インプラント体が顎骨と結合し、人工歯の土台となります。1本または複数の歯が失われた場合、あるいは全ての歯が失われた場合にも利用することができます。

4. あなたはどの治療法を選択すべきか？

1) 患者側からみた判断の基準

担当の歯科医師から、治療に先立って、以下の説明があるはずですが、その説明をもとに、自分に合った治療法を判断するとよいでしょう。

3つの治療法のそれぞれの適応症・利点・欠点・治療費

① 固定式ブリッジ

適応症：1歯ないし複数歯の欠損で、その欠損の距離が比較的短く、両端に土台となる歯が存在する場合。

利点：固定式ブリッジは、口の中で動かないため、違和感が無く邪魔にならず、装着感が優れています。また、見た目が大切な前歯、強い咀嚼力を要する奥歯のどちらの部位にも用いる事が出来ます。

欠点：固定式ブリッジは天然歯を利用して取り付けます。欠損部に隣接する歯に対して人工歯をかぶせるための削除形成処置を行い、ブリッジの土台として用います。土台になる歯の健康状態がブリッジの寿命を左右します。

接着式ブリッジ：レジンで接着する固定式ブリッジが用いられる場合もあります。このブリッジは、隣接歯の内側に接着して固定するため、隣接歯の形成量が最小限で済みます。ただし、このブリッジは強い咀嚼力を要す

る奥歯に使用することはできません。

治療費：欠損の大きさ、ブリッジの本数、前歯と奥歯などの条件によって異なりますので一概にはいえませんが、概ね以下の通りです。

- ・ 保険適用 3割負担で約10000円～約45000円の自己負担
- ・ 自費適用 平均的に、冠1本が8万円～15万円ですから、3本ブリッジでは24万円～45万円、5本ブリッジでは40万円～75万円になります。さらに消費税が加算されます。

② 取り外し式義歯

適応症：1歯ないし複数歯の欠損で、その欠損の距離が比較的長く、従来の固定式ブリッジでは力学的に欠損の回復・維持が困難な場合。

利点： 残存している歯にほとんどダメージを与えることなく入れ歯（義歯）を製作／装着できます。また、都合に合わせて取り外しが可能です。お口と入れ歯の清掃も、入れ歯を取り外した状態で行えます。外科手術は必要ありませんし、歯もあまり削りませんから、高齢の患者さんでもストレスなく、治療を受けられます。歯と粘膜の状況や変化に応じて修理、裏打ちなどを実施し、入れ歯の改善ができます。

欠点： この種の義歯は取り外し式であるため、口の中でゆるんだり、動いたりしやすいのが問題になります。会話時に入れ歯が動くと、違和感や不快感を感じてしゃべりにくくなります。食事中に入れ歯が浮き上がると、食べにくいだけでなく、食べ物が入れ歯と粘膜の間にはさまり、痛みの原因になります。したがって、歯科医院で入れ歯を必要に応じて調整・修理してもらい、できるだけ早いうちに入れ歯に慣れることが不可欠です。

治療費：欠損の大きさや使用する装置のちがいで異なります。ここでは概略を提示します。

- ・ 保険適用 3割負担で約7000円～27000円
- ・ 自費適用 平均的に、20万円～50万円ですが、特殊な装置を併用する場合は、その費用がかかります。さらに、消費税が加算されます。

③ インプラント

適応症：インプラントが適している患者さんは次の通りです。

- ・ 心身ともに健康な人
- ・ インプラントをしっかりと支えられる顎骨の人

- ・ 口腔内の衛生管理が適切にできる人
- ・ 定期的に通院できる人

利点：インプラント体は顎骨と結合することにより、その上に装着する人工歯をしっかりと支えることができます。インプラント体に装着された義歯やブリッジまたはクラウンはハズレたり、口腔内で横すべりしたり、移動したりすることがありません。そのため違和感が少なく、邪魔になりません。特に飲食時や会話中にすぐれた効果が発揮されます。確実に適合しているため、従来型の可撤式義歯と比べ、修復歯（床つき人工歯部）に対する違和感がほとんどありません。また、インプラント体を土台にした可撤式義歯の場合でも、非常に安定がよく可撤式の義歯に比べ快適な装着感が得られます。

欠点：通常、3つの欠点を理解しておくべきです。

- ①. 外科手術が必要です。外科手術のできない健康状態の方は禁忌症です。また、術後には1, 2日間の疼痛、約1週間の腫脹を覚悟しておくべきでしょう。
- ②. 治療期間が他の治療法と比べて長くなります。これは、インプラント体と顎骨が一体化するのに要する治癒期間が不可欠なためです。下あごで約3ヶ月、上あごで約5～6ヶ月の治癒期間を経た後、人工歯部の製作に取り掛かりますから、治療完了までさらに1～2ヶ月の期間が必要になります。
- ③. 治療費が比較的高価になります。
インプラント治療は保険治療の適用外です。また、他の治療法の自費治療費と比べても割高な場合が多いのが通常です。

治療費：ひとつの目安として提示しますと、1本のインプラント修復が30万円～50万円です。ただし、インプラント体の本数が多数（5本～10本）の症例では、この限りではありませんから、歯科医師と相談してください。増骨手術が不可欠な場合は、さらに別途、相応の手術代が必要になります。また、消費税が加算されます。

2) 歯科医療側からみた判断の基準（科学的根拠に基づく判定基準）

歯科医師が専門的見地から各々の患者さんにどの治療法が最適かを種々の診査結果より、科学的根拠に基づいて診断します。